



INTERCOUNTRY

インターカントリー

No.44 2013

社会福祉法人 日本国際社会事業団 International Social Service Japan

## 新年明けましておめでとうございます

本年も皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。また、旧年中皆様からISSJに頂きました温かい励ましとご支援に心より厚く御礼申し上げます。

昨年は日本のみならず世界のあちこちで、政治的、経済的混乱が派生し、また、自然界でも台風、竜巻、地震等の発生により人間の英知が求められました。今年度、人間社会においても自然界においても、より厳しい状況が予想される中で、ISSJでは『国境を越えて愛の手を』をモットーに、国籍、人種、宗教、信条、性別等に拘わらず、援助を必要とする人々に可能な限りの支援をして参ります。200万人を超える外国籍の方々が出入国される昨今、様々な問題を抱える人々の数も増えてきております。60年を超える経験の中で培ってきた国際福祉の専門知識が豊富なISSJの存在は、ますます必要とされております。国際養子縁組、国際結婚離婚に関わる問題、日本に助けを求めてきた難民申請者への問題、様々な事情で国境を越えて家族と別れ別れになった人への家族統合の支援、さらに在日カンボジア難民の要請により始めたカンボジアでの貧困家庭の子どもへの識字教育とそれに携わる人材育成等、その活動は多岐にわたっております。今年度もISSJの長年の悲願である1993年ハーグ条約「国際養子縁組に関する子の保護及び国際協力に関する条約」の批准及び1980年ハーグ条約「子どもの奪取に関するハーグ条約」の批准を日本政府に訴えてまいります。

支援を必要とする人々の増加に伴い、ISSJの活動費が大変逼迫しております。今年も役職員一同心を合わせて活動してまいりますので、ご寄付やチャリティ映画会、チャリティコンサートのチケット購入に一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 大槻弥栄子



今年も国際養子縁組を援助した家族から近況を知らせるクリスマスカードが届きました

# ぼくにやっと家族が出来たよ！

—国際養子縁組援助事業—

ISSJソーシャルワーカー 田中 美結



関西地方の児童相談所から、ゆう君（当時3歳、仮名）の養親を探していると連絡が入ったのは2010年のことでした。年齢や発達の心配から日本人の養親との養子縁組が決まらず、家庭を与える最後の手段として国際養子縁組の可能性が探られました。アメリカにいる家族とのマッチングが決まった2012年の始め、ゆう君は家族と一緒に渡米しました。渡米してからも、ISSJは養親との連絡を欠かすことなくゆう君の行動や情緒面の適応状態を見守ってきました。現地の養子縁組団体からもゆう君が両親と兄妹たちに見守られ、のびのびと過ごしているという報告書が届きました。ISSJはゆう君の適応について悪いことも含めて率直に教えてほしいと養母に依頼をしました。

『正直にいうと、私もゆう君の適応が容易だったことに驚いています。ゆう君が不満に感じる時は、原因がよく理解できるものであり、彼の試し行動（養子が養親を試すために起こす問題行動）は5歳になり自律を探っている本当に年齢に適した行動だと思っています

す。』養母からのメールはこのような書きだしで始まっていました。『始めの頃は、言葉の壁がゆう君にとって欲求不満になったことが度々ありました。寝かしつける時、彼が5～10分くらい完全に日本語で話すのですが、聞こえた単語から、彼が今日したことを話しているのだと分かりました。何週間か経つと、寝る前には静かに考え込むようになりました。この時私たちは携帯電話の翻訳機能を使って、彼が発した言葉を翻訳しました。時々誤訳があったようですが、彼はくすくすと笑って、寝る前のこの習慣を楽しんでいました。時には私が英語で今日したことや明日の予定について話し、それを翻訳しました。彼はこれに満足したようでした。』ゆう君の養親は日本語を全く話せませんでしたが、ゆう君の生活に必要な単語を覚えました。アメリカでゆう君が慣れない言葉の中で生活するストレスを理解し、養親は積極的に日本のアニメを見せて、日本の歌をゆう君と歌いました。

『ゆう君がかんしゃくを起こしたのは数回だけでした。私がゆう君の欲しいおもちゃを買わなかったのが、起こしたことが一回ありました。上手く言葉が伝えられずに悔しかったのか、泣きだしてしまいました。こういう時には彼のそばに立ってかんしゃくの発作を見守り、しばらく経ってから背中をさすり、抱っこしてほしいか聞きます。欲しがっているおもちゃが実はクリスマスプレゼント用に家に隠してあると彼に説明できなくて私たちも辛い思いをしましたが、常に彼を理解し、愛情を示すようにしています』子どもはかんしゃくを起こすことで感情を表現します。子どもに振り回されることなく落ち着いて対応することが功を奏した場面です。



養子縁組をされた子どもに共通するのが、実親だけでなく養親からも捨てられてしまう、離れ離れになるかもしれないという不安です。ISSJに照会がくる子ども達は比較的年齢が高く、これまで長年親を待ってきた子ども達であるので、よりその傾向が見られるように思います。ゆう君についても、養親とスーパーに行った時に養親が発した「バイ、バイ」という言葉（実際は、「買う」という意味のbuyであったようですが）に過敏に反応し、泣きだしてしまっていたことがあったといえます。スーパーで泣き叫ぶゆう君に対し、養親は落ち着いて「ゆう、マミー、ホーム」とゆう君が理解できるような平易な言葉で説明をし、しばらくするとゆう君は落ち着いたといえます。

理解があり、経験が豊富な夫妻と姉に支えられ、ゆう君はしばらくすると自分が自分の家だという認識を持つことができました。その具体的な例をメールから抜粋します。

『アメリカに来て一カ月くらいでしょうか、ゆう君が上の三人の子どもの写真が壁に貼ってあるのを見て、「ジョン(長男)、ジェームス(次男)、ジェシカ(長女)」と指差して言いました。その次に、写真の横の何もない壁をさし、「ゆう」と私を見ながら言ったのです。私たちは急いで彼の写真を撮り、額に入れて三人の写真の横に飾りました。彼はとても嬉しそうでした。』

ゆう君の場合、試し行動は少なかったようです。試し行動があるかないか、どんな試しをするかは、子ども達が一人一人違うようにその答えも様々です。ただ、養親の目する行動や感情表出のほかにも、子ども達は色々なことを考えています。ゆう君を迎えて初めてのハロウィン、サンクスギビング、クリスマス、お正月にゆう君の誕生日と様々なイベントが重なる今年の冬は、ゆう君にとっても家族にとっても思い出深い季節になったに違いありません。



【財団法人JKA競輪補助事業】

## お母さんになってくれる？

— 家族再会援助事業 —

ISSJソーシャルワーカー 田中 美結

児童相談所からの通訳依頼を受け、欧州在住の父親と日本にいる娘の再会に立ち会いました。欧州人の父親は、20年程前に日本で仕事をしていた際に日本人女性と結婚し、その後欧州に移住した際にりなちゃん(仮名)が生まれました。りなちゃんが3歳の時に両親は離婚し、りなちゃんは母親と一緒に日本に帰りました。しかし、りなちゃんが5歳の時に母親が急な事故で亡くなってしまい、親族に世話ができる人がいなかった為、りなちゃんは児童養護施設へ入所しました。

海の向こうでは、元妻が亡くなったと共通の知人から連絡を受けた後、父親がずっと娘のことを探していました。会いたいのにどこにいるかも分からない娘。父親は当時の心境を「ずっと心に穴が開いたようだった」と語っていました。父親は再婚し子どもを授かりましたが、妻と子どもにもりなちゃんのことを話しいつか一緒に暮らせるようにと家族で願っていました。

大使館や親族からの知らせを聞いた父親はすぐに来日し、12年ぶりの親子の再会が叶いました。幼くして両親と離れたりなちゃん。会いたいのに会えなかった両親のことを思い、これまでどれほど寂しさを我慢したことでしょう。わざと暴言を吐き、学校を“さぼって”いました。美しく優しい心を内に隠し、「大人なんか信用できない」と心に壁を作って生きていました。染めた髪といくつものピアスは彼女なりの武器だったのでしょうか。そんな彼女が、父の再婚相手の話を聞き、「お母さんって呼んでもいい？お母さんだと思っていいいの？」と涙声で尋ねたのが忘れられません。

話が進み、りなちゃんが父親の家族と一緒に暮らし始めました。娘を探してくれてありがとうと父親に伝えると「僕に感謝する必要はないよ。地球を10周したってりなに会いに行っていたよ。何年も恋しく思っていたから、今はとても幸せだよ。」と電話口で語っていました。また父親の再婚相手は、りなちゃんにとって初めての信頼できる大人であり、思い焦がれていた「お母さん」になりました。母親は、りなちゃんがこれまで家庭を知らずに育ってきたということにショックを受けていましたが、優しく、時には厳しく母としてりなちゃんを見守っています。あんなに高校に行きたくないと言っていた彼女ですが、今では大学進学を目指して勉強しています。りなちゃんから充実した高校生活を聞いたたびに、子どもには家庭環境が一番大事だと再認識させられます。

【財団法人日本財団援助事業】



### 国際養子縁組援助

現在、適応期間を過ごしている3家庭には、新たに委託された子どものほかに、実子や養子がいます。施設から家庭に移った子ども達は、お父さんとお母さん、そしてきょうだいことができました。8歳のMくんは、アメリカ人一家に委託されてから9ヶ月が過ぎました。12歳のお兄ちゃんと7歳の妹とじゃれあう姿は、自然で本当に楽しそう。英語でのコミュニケーションも驚くほど上達しました。裁判所の調査官による家庭訪問も終わり、一家は、養子縁組の審判を心待ちにしています。2歳のGちゃんは、カナダ人一家に委託されてから3ヶ月が過ぎました。お父さんとお母さんの英語をずいぶん理解できるようになっています。5歳のお姉ちゃんも3歳の時に施設から引き取られた養子です。2人の会話は、もっぱら日本語。お姉ちゃんと一緒にだと、いたずら度もアップし、目が離せません。1歳のRくんと0歳のKくん兄弟は、1ヶ月前にアメリカ人一家に委託されました。環境が変わっても、よく食べ、よく眠り、元気いっぱいです。3歳のお姉ちゃんは、突如現れた弟たちに、最初は戸惑ったものの、世話を焼いたり、一緒に遊んだり…。結婚当初から、養子を迎える夢を抱いていた夫妻は、申請当初から、きょうだいの受け入れを希望していました。幼い娘も、迎え入れた息子たちも、たっぷりの愛情で包み込んでくれています。児童相談所と乳児院のスタッフも、兄弟を一緒に委託できたことを喜んでくださいました。

【財団法人JKA競輪補助事業】

### 国籍取得・送還援助

ISSスイス支部から日本人とフィリピン人の両親を持ち、現在スイスに住むAさん（18歳）が、幼い頃両親の離婚によって別れた日本人の父に会いたがっているという相談がありました。両親が離婚をした当時、まだ幼かったAさんはフィリピン人の母に連れられて日本からスイスへ渡りました。その後、母親とも別れスイスの施設で育ったのです。ISSJはAさんの父親の所在を見つけることはできませんでしたが、しかし父方の祖母と連絡を取ることが出来ました。祖母とAさんは手紙での交流が続き、祖母は孫娘の「父に会いたい」という希望を叶えるべく、父の知人などを訪ね、現在父がタイ国に住んでいるかもしれない、という情報を入手したのです。それを知ったAさんは再びISSに対して父親探しの相談をしました。ISSスイスとISSJで検討し、日本の外務省を通してAさんの父親の所在確認を行い、父親も幼い頃に分かれたきりのAさんと連絡を取りたがっていることが判明しました。父と娘は十数年ぶりに繋がったのです。現在Aさんはスイスで日本の祖母とタイの父親に再会する希望を持ちながら元気に暮らしています。

【財団法人日本財団援助事業】

### 難民申請者への援助

ISSJは国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の事業パートナーとして、日本に逃れた難民の支援を行っています。主な内容はメンタルヘルスと収容されている難民申請者のカウンセリングですが、さらに今年は難民のグループカウンセリング（全5回）とワークショップ（東京・大阪全3回）を開催しました。ワークショップは、ISS香港支部から講師を招き、「難民の心理社会支援とソーシャルワーク実践」というタイトルで開催しました。合計で80名近くが参加し、難民になるとはどういうことか、どのような支援が有効か、などの専門的内容を事例に基づいて学びました。難民のソーシャルワークに焦点を当てたワークショップは初の試みでしたが参加者からは大変好評で、次の開催を求める声が多く寄せられました。

グループカウンセリングは日本で暮らす難民女性が対象です。難民として認定されても異文化で暮らすことには多くの困難が伴います。日本社会との付き合い方、異文化での子育て、家族の問題など、彼女たちの悩みは多岐に渡りました。食文化や親子の対話というテーマから発展して「難民親子お菓子教室」も開催しました。最後のカウンセリングでは「私たちの話を聞いてくれてどうもありがとう」という感謝のコメントがありました。支援はこれからも続きます。

【UNHCR委託事業】



ワークショップで熱心に講師の話を聴く参加者



好評のお菓子教室



## 第66回チャリティ映画会・バザー開催のご案内

いつもISSJ映画会バザーをご支援頂きありがとうございます。

第65回映画会は、一ツ橋ホールで10月19日に開催し、3回合わせて1326人の皆様に第82回アカデミー賞4冠に輝いた「英国王のスピーチ」をお楽しみ頂きました。無事終了できましたのも、多くのボランティアの皆様をはじめご支援くださる皆様のおかげと感謝しております。皆様からのご支援は参加券、ご寄付、バザーへのご協力を合わせて2,543,534円でした。国境を越えて支援を必要としている子ども達とその家族のために大切に使用させていただきます。また、今年度は大和証券福祉財団より、チャリティ映画会の運営に携わっている催物委員会に対して30万円のボランティア活動助成金を頂き、活動運営に使用させて頂きました。心より感謝申し上げます。

次回第66回映画会は2013年6月19日（水）開催予定で、上映作品は厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財にも選ばれた「オレンジと太陽」です。英国最大のスキャンダルともいわれる13万人もの“児童移民制度”の真相を暴いたイギリスの女性ソーシャルワーカーの姿が熱く描かれています。



日時 : 2013年6月19日(水) 11:00、14:45、18:30

場所 : 一ツ橋ホール (日本教育会館3F、神保町駅徒歩3分)

上映作品: 「オレンジと太陽」(2010年 英・オーストラリア 106分)



### NHK全国放送で紹介～ISSJの国際養子縁組支援活動～

2012年12月16日、ISSJの国際養子縁組支援活動の一端がNHK全国放送「パパとママがほしい～大阪・乳児院の一年～」という番組で紹介されました。番組放映後、ISSJには「番組を見て活動が少し理解できた」などの反響の声が寄せられました。また、「様々な事情で国内養子縁組が難しいと思われる子ども達に国際養子縁組の援助をしている貴団体の役に立ててください」と寄付のお申し出もありました。有難うございました。

### ご支援のお願い

皆様の温かいご支援をお待ちしております。

こんな時にご寄付をいただいています。

お誕生日、結婚記念日 子どもや孫が生まれた時  
その他、故人の遺志を尊重して

幸せなニュースに接した時

ISSJへのご寄付は、寄付金控除等の税の優遇措置の対象となります。  
皆様のご寄付、ご支援で多くの子どもたちの笑顔が広がりました！



振込先 : 三菱東京UFJ銀行中目黒支店 普通0397932  
郵便振替 00190-7-64911

加入者名 社会福祉法人 日本国際社会事業団

団体・法人会費 年/ 1口 120,000円

団体・法人賛助会費 年/ 1口 50,000円

個人・グループ会費 年/ 1口 5,000円 (何口でも可)

その他金額の多少にかかわらず、切手、テレホンカード等ご支援を受け付けております。

理事 吉永 通憲



ISSJにご縁を戴いたきっかけは35年以上前に当時外務大臣であられた山田久哉代議士よりのご紹介からでした。当時のお仲間には福田赳夫元内閣総理大臣のご長女の和子夫人や現在も評議員としてご活躍されている園田天光先生等がいらっしやいます。ISSJの事業内容は時代と共に対応して参りましたが、これらの活動をサポート

する為に必要なのが活動資金でした。その問題を解決する為の一つの方法として「催物委員会」が設置され、発足当時より係ってまいりました。以来65回の映画会を終え、ご協力金は2億円弱にも達しました。この結果はご鑑賞戴いたお客様を始め、ボランティアの皆様のためご尽力のお蔭であり、改めて関係各位に感謝申し上げます。これらの収益は総て各種援助活動に使用されておりますがそれでも尚、事業資金のやり繰りには厳しいものがあります。この状況を解決すべく今後新たな仕組みを関係者一同で考えていかなければいけないと強く感じております。その先にひとりでも多くの子ども達を幸せに導く道が開けると信じ、皆様よりご支援を頂きながら充実した活動内容を目指しますので、今後ともご理解、ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

理事 鳥居 淳子



私は、国際私法と云って、国際結婚、国際養子縁組、国際契約などの法律関係を規律する法を勉強してきました。

オランダのハーグでほぼ4年毎に開かれるハーグ国際私法会議という国家間の国際会議があります。日本も1904年から、この会議に参加しています。この会議で、

1993年に、国際養子縁組に関する条約が作成されました。この会議で、条約の作成に参加したことから、私は、ISSJでこの条約についてお話をすることになりました。これがISSJと私との結びつきの始まりでした。1993年の会議には、ISS (International Social Service)もオブザーバーとして参加していました。

1993年の条約は、国家間の国際的な協力によって、国際養子縁組という名のもとに、子どもが売買されたり取引されたりすることを防止して、子どもを保護することを目的として作られました。すでに89の国がこの条約に入っていますが、日本はまだです。国内の法制度などとの関係でいろいろ問題はありますが、日本もこの条約に入ることを検討する必要があると思っています。

ISSJ活動報告2012年9月 12月

9月	3日 第334回理事会	14日 難民ワークショップ開催 (大阪会場)
10月	10日 三郷市第三国定住難民訪問	15日 難民三者協議会 ISS香港エイドリエル氏を迎えて ワークショップ開催
	19日 第65回 チャリティ映画会バザー開催	16日 難民ワークショップ開催 (JICA地球ひろば)
	21日 UNHCR 難民へのヒヤリング	17日 難民ワークショップ開催 (津田ホール会議室)
	22日 第335回理事会・第160回評議員会	17日 上智大学社会福祉学実習報告会出席
	29日 UNHCR難民へのヒヤリング	19日 UNHCRモニタリング
11月	5日 第336回理事会、第161回評議員会、第337回理事会	21日 日法務省にて難民問題勉強会出席
	7日 内閣府難民有識者会議出席	22日 財団法人JKA 平成22年度補助事業 監査
	8日 FRJ委員会	28日 国際ボランティア貯金によるNGO活動状況報告会出席 (於 メルパルク)
	12日 ISS香港よりエイドリエル氏来日	29日 日本財団ヒヤリング
	13日 エイドリエル氏と打ち合わせ 品川入国管理局訪問	12月
	14日 第338回理事会、第162回評議員会	5日 内閣府難民有識者会議出席
		13日 外務省ハーグ条約室西岡氏、鶴田氏来所
		19日 外務省第三国定住プログラム話し合い

インターカントリー第44号 2013年1月1日発行

発行 行：社会福祉法人 日本国際社会事業団  
International Social Service Japan (ISSJ)  
発行責任者：常務理事 大森邦子  
発行所：〒113-0034東京都文京区湯島1-10-2  
御茶ノ水K&Kビル3F  
TEL：03-5840-5711 FAX: 03-5840-0415  
E-Mail：issj@issj.org URL：www.issj.org

ISSJの活動は、JKA(旧日本自転車振興会)、日本財団、郵便貯金簡易生命保険管理機構国際ボランティア貯金、UNHCR(難民高等弁務官事務所)、日本メイスン財団、東京都共同募金会及び個人、団体の会員の皆様、また善意のご寄付を下さいます多くの皆様に支えられております。ありがとうございます。今後ともどうぞご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。